

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1270201054
法人名	株式会社マウントバード
事業所名	グループホームちぐさの家
所在地	〒262-0012 千葉県千葉市花見川区千種町150-1 (電話) 043-216-0860

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年2月25日	評価確定日	5月1日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他	食費45,000,水道光熱費20,000,病院の往診委託料2,800,TV使用料,理美容代,整体マッサージ代,送迎交通費など	
敷金	無		有りの場合償却の有無	有(期間:36ヶ月)
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000円)			
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(1月末日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平山病院 幸有会記念病院
---------	--------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

千葉市内でありながら、自然が豊かに残っている地域に建つホームである。ホームに隣接して畑があり、入居者と職員が楽しみながら農作業をしている。ホームはバリアフリーで、職員は常に入居者に目を配りながら、仕事ができるつくりになっている。ホームの理念を職員が理解し、自然な形でケアに活かしていると感じられた。また、家族が自由に遊びに来ることができ、入居者、職員、家族が自然な交流を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の主な改善課題について、全ての改善項目を列挙し、職員で話し合い、改善活動に取り組んでいる。改善されていない項目は、今回の外部調査で指摘されている部分であり、それについては、その理由、根拠を明らかにし、段階を踏んで改善することとしている。職員間のコミュニケーションが良く取れていて、自由な意見交換がされている。改善課題に対するホームとしての問題意識や改善意欲は高い。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、フロアリーダー、サブリーダーで自己評価を行っている。外部評価の結果については職員に報告、改善に向けて努力しているが、自己評価については職員全員が参加していない。自己評価の段階から職員全員で取り組むことが必要と思われる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、近隣住民が参加し、意見交換をしてホームの運営に反映している。ホームの状況や行事予定などを報告し、地域との交流を深める機会としている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	管理者、フロアリーダーは家族への声かけを大切にしている。入居者や家族が気軽に声をかけやすい雰囲気があり、意見箱を使うまでもなく、さまざまな意見や相談が寄せられている。運営推進会議での意見と併せて、運営に活かすよう努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	外出(散歩、買い物、外食など)時には、こちらから近隣住民に挨拶をするなど基本的なことを心がけ、実践している。地域の行事に積極的に参加するとともに、ホームの行事にも地域住民の参加を呼びかけ、交流を深める機会を持つようにしている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を掲げ、地域の中でのホームの位置づけを意識して、ケアに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、ミーティングなどで確認している。職員は理念を理解し、自然にケアで実践することを心がけている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のお祭りなどには積極的に参加し、花火大会などのホームの行事には地域住民の参加を得るようにしている。近隣との交流は入居者の楽しみでもあり、また、防災、安全管理の側面からも意識して推進している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、フロアリーダーは、外部評価の意義などを理解し、改善項目を上げ、取り組んでいる。しかし、一般職員は自己評価に関しておらず、その意義を充分理解しているとは言えない。		自己評価を行う時に、職員にその意義を説明し、全職員で取り組むことが重要と思われる。外部評価の意義を全職員が理解し、具体的に改善していくことで、介護の質の向上に繋ぐことが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、近隣住民などが出席している。ホームの状況報告を行い、意見交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席を依頼し、市町村担当者と直接連携がとれるように努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の「ちぐさ便り」で個別に報告をしている。その他、家族との面会時に近況をつたえたり、健康状態などについては少しの変化でもあれば、その都度連絡をとっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者、管理者、職員は、気軽に話せる雰囲気作りを心がけ、吸い上げた意見を運営に反映する努力をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わり、異動がある場合は、入居者に事前に充分説明している。交代等には時間をかけ、管理者、フロアリーダーが入居者に不安を与えないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修、資格取得推進など職員のレベルアップには力を入れている。しかし、計画的研修の実施や研修機会の平等な提供がなされていない。		職員全員が、平等に研修を受けることができる体制を作り、計画的に一人ひとりのレベルアップを図ることが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と交流を持ちたいと考えてはいるが、実施できていない。		同業者との情報の交換、勉強会等、ネットワークを広げることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、複数回ホームを訪問することで、本人と家族がホームや職員に馴染んでから入居してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者と共にいる時間を楽しんでいることがうかがえる。一方的にケアをするのではなく、人生の先輩である入居者から教わることは多く、持ちつ持たれつの関係が構築されている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>顔色や表情から読み取ったり、普段の会話の中からも希望や意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本人、家族、訪問医、訪問看護師、訪問リハビリなどの関係者、職員で課題とケアのあり方を協議し、意見を反映した介護計画を作成し、同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の観察や月一回のカンファレンスで介護計画の実効性を確認し、急変時はすぐに見直している。また短期目標については3ヶ月、長期目標については6ヶ月で見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人が四つのグループホームと介護付き高齢者住宅を経営しているので、連携をとりながら、入居者や家族の意向を柔軟に支援することができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院以外に認知症の専門医や以前からのかかりつけ医等、入居者と家族の納得のいく医療機関の受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者本人、家族との連絡を密にし、主治医の見解や本人、家族の意向を尊重して方針を共有するようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を尊重した言葉かけ、さりげない介助、書類の保管方法などプライバシーに関する事項を職員間で話し合い、実践している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての日課はあるものの、起床、食事、入浴時間等、入居者の体調に合わせ、無理強いすることなく支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事の準備や、後片付けをし、同じ時間に同じ食事を、さりげない介助や会話を楽しみながら過ごしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能で、14時～18時を目安に入浴時間を設定してはいるが、希望に応じて、柔軟な対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日頃の会話の中から把握した生活歴や、好きな事、得意な事を活かせるような場面作りをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にできるだけ沿って、散歩や買物等、外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リビングから庭に出ることはできるが、玄関と非常口は家族の了解を得て施錠している。		職員の見守りと連携で、鍵を掛けないケアの実現が望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所を決め、年二回の避難訓練で消火器の使い方や誘導の仕方を訓練しているが、非常時の役割分担が明確ではないので、混乱を生ずる恐れがある。		役割分担を決めて、訓練することが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリーや栄養バランスを考えて立てた献立を食材で購入し、ホームで調理している。入居者の状況によっては、記録をとり管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりがあるリビングはゆったり広く、明るい。調査は2月末だったので、雛人形が飾られていた。温度、湿度は程よく管理され、気になる音や臭いもない。リビングの一角が畳になっていて、ここで寛ぐ入居者もいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品、思い出の品を持ち込み、自宅と同じように過ごせる配慮をしている。		